

近畿中学校道德教育研究大会・滋賀大会（本校会場）を終えて

去る11月20日（金）、近畿各府県から総勢165名の方々が本校に参集くださり、今年度で21回目を数える標記研究大会が開催されました。

本校としては、午前中の1時間、全学級で道德の授業を公開し、生徒が学習している様子をご覧いただきました。その後3つの分散会がもたれ、各会場では2本ずつの研究発表と研究協議が行われました。本校も第1分散会にて取組経過を研究主任が報告したところです。

午後は全体会として、本校教職員も参加し、開会行事に続いて記念講演が行われ、文部科学省教科調査官の赤堀博行先生に『道德の「特別の教科」化に対応するために』と題してのお話を拝聴することができました。その講演の中では、「道德の時間はもとより、全教科、全領域における道德的価値の涵養のための具体的な進め方」を学ぶことができ、今後の本校教育に活かしていくことが求められています。

今回、このような近畿レベルの大会を本校でお受けしたのには、道德教育が全職員で取り組めるものであることが大きな理由です。このことは、道德の時間を担当する各担任をはじめ、各教科、特別活動を含んで、教科調査官のお話にも通じる場所があります。

道德教育に焦点をあてて全教員で年間を通して取り組む研究は今年度で終了することになりますが、「道德の学習意義とその実感において、できるだけ教師と生徒を近づけていくこと」を課題としながら、この3年間で得た成果を、来年度以降に精力的に活かしていければと思っています。

最後に、今大会に向けて勤務校でのお忙しい職務の中、諸準備、当日とご厄介になりました。県道德教育部会の皆様にお礼を申し上げます。